

第5期雄武町総合計画 前期実施計画書 兼 事務事業事後評価調書

No. 1001021

政策目標	4 うるおい・雄武～生活環境・生活基盤の充実～	会計区分	1 一般会計	【全体計画内容】※前期実施計画期間外の計画期間を有する場合のみ記載 ・設置経過年数が、15年以上で機能著しく機能低下している箇所を随時改修する。
基本施策	16 交通体系の整備	事業優先度	B	
単位施策	1 道路環境の向上	政策事務分類	3 単独自治事務(その他)	
事業名	ロードヒーティング改修事業	見直し年度		
事業期間	平成21年度～平成24年度	担当課	10 建設水道課	
事業主体	雄武町	関係課	#N/A	
事業指標	改修箇所		#N/A	
事業目標	5箇所	ハード/ソフト事業区分	1 ハード事業	
住民参加 住民協働	2	関係例規・法令名		
		関係個別計画名		

全体計画 事業内容		平成 20 年度 事業内容	平成 21 年度 事業内容	平成 22 年度 事業内容	平成 23 年度 事業内容	平成 24 年度 事業内容
計 画 内 容	○既設のロードヒーティングの改修 (補助対象事業とするため、設置後15年を経過し、機能が著しく低下している箇所を対象) ・改修箇所～5箇所(全7箇所)		・幸海線 L=20m、W=7m、A=140㎡	・曙通り L=20m、W=3m、A=76.6㎡	・旭日公園2号線 (花田水産前) L=15m、W=5m、A=75㎡ ・末広幹線 L=15m、W=5m、A=75㎡	・1丁目線 L=20m、W=6.0m、A=130㎡
計 画 事 業 費	事業費(千円)	59,300	0	11,300	8,000	20,000
財 源 内 訳	国庫支出金	6,780		6,780		
	道支出金	0				
	地方債	47,200			7,200	20,000
	その他	0				
	一般財源	5,320		4,520	800	
実 績 事 業 費	事業費(千円)	53,002	0	11,495	7,802	18,354
財 源 内 訳	国庫支出金	6,780		6,780		
	道支出金	0				
	地方債	40,600			7,000	18,300
	その他	0				
	一般財源	5,622		4,715	802	54
関 連 事 項	(特定財源の詳細等) ・地域活力基盤創造交付金(補助率～60%) ・臨時地方道整備事業債(起債～90%) ・社会資本整備総合交付金(補助率～60%) ・起債(過疎)～100%	【評価・実績】	(実施内容等) L=20m、W=6m、A=120㎡ ※前年度評価結果	(実施内容等) ・曙通り L=20m、W=3m、A=76.6㎡ ※前年度評価結果 A-継続/現状維持	(実施内容等) ・旭日公園2号線(花田水産前) L=15m、W=5.0m、A=83.9㎡ ・末広幹線 L=15m、W=5.5m、A=74.4㎡ ※前年度評価結果 A-継続/現状維持	(実施内容等) ・1丁目線 L=20m、W=6.0m、A=130㎡ ※前年度評価結果 A-継続/現状維持
	第4期総合計画関連 (継続無し)	年度目標値	1箇所	1箇所	2箇所	1箇所
		年度達成率	#DIV/0!	102%	98%	92%
		全体達成率	0%	19%	33%	63%
		事業進捗状況	☆☆☆☆	☆☆☆☆	☆☆☆☆	☆☆☆☆

事業名	ロードヒーティング改修事業	評価者 管理職 職氏名	建設水道課長	佐竹邦夫
		評価者 作成者 職氏名	土木管理係長	田原慎也

■事務事業の目的・内容(Plan・Do)

【誰、何が(対象)】	道路利用者、道路	望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)	改修箇所数
【抱える課題やニーズは】	急勾配路線交差点付近の路面凍結による交通障害。	指標(指標計算式/解説)	目標値及び実績値
【どのような状態になることを目指したのか(意図)】	急勾配路線交差点付近の路面凍結の防止。	① 改修箇所数/改修箇所数の実績	目標年度 平成24年度
【その結果、どのような成果を実現したいか】 ※成果=目的	冬期間の急勾配路線交差点付近の交通の安全性の確保。		目標値 1箇所
			実績値 1箇所
			達成度 100.0%
		②	目標年度 年度
			目標値
			実績値
			達成度 #DIV/0!%
【内容(どのような手段で何を行ったか)】	①民間業者による設計、工事の実施	入札により民間業者に改修設計及び改修工事を発注し、ロードヒーティングの改修を実施した。	

■事務事業の評価(Check)

(1)事務事業の必要性(町民ニーズ、社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事業を実施しない場合の支障、既存事業との機能重複や見直しによる対応可能性)

必要	<input type="checkbox"/>	義務的なもの	冬期間における町道の急勾配路線交差点付近の交通の安全性を確保することは、町が担う必要がある。
必要/概ね必要/課題あり	<input type="checkbox"/>	全部	
	<input type="checkbox"/>	一部	

(2)事務事業の有効性(期待する効果が得られたか)

有効	設定した目標値の達成状況	当該事業を実施したことにより、冬期間の急勾配路線交差点付近の交通の安全性が確保された。
有効/概ね有効/課題あり	<input checked="" type="checkbox"/> 達成	
	<input type="checkbox"/> ほぼ達成	
	<input type="checkbox"/> 下回る	

(3)事務事業の効率性(コストに見合った効果が得られたか、計画上のコストを下げる工夫をしたか)

効率的	判断の理由	舗装に再生材を使用したことで事業費が抑制されたことは、効率的であると判断する。
効率的/概ね効率的/課題あり	<input checked="" type="checkbox"/> 事業費抑制	
	<input type="checkbox"/> 人員削減	
	<input type="checkbox"/> 時間短縮・作業軽減	
	<input type="checkbox"/> その他	

(4)事務事業の公平性

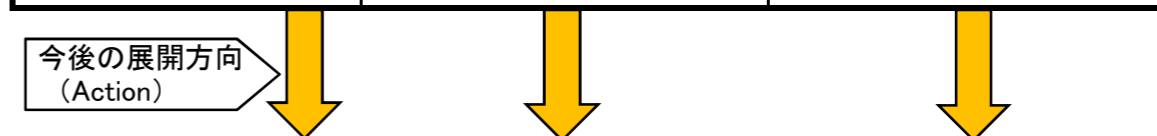
公平	判断の理由	冬期間の交通及び安全性の確保が出来たことは、不特定多数の道路利用者に対して公平であると判断する。
公平/概ね公平/公平でない	<input type="checkbox"/> 受益者負担がある	
	<input type="checkbox"/> 受益者負担がない	
	<input type="checkbox"/> 受益が一部に偏る	
	<input checked="" type="checkbox"/> その他	

■その他特記事項(アンケート調査など外部評価を受けた場合は、その旨記入)

■総合評価【A~D】

A:計画通り事業が進んでいる。目標が達成された。今後も計画通り事業を進めることが適当 等
 B:ほぼ計画どおりに進んでいるが目標を達成していない。事業の進め方に改善が必要 等
 C:当初の計画を達成できていない。事業規模、内容、実施主体等の見直しが必要 等
 D:事業効果が表れていない。事業の統合、休・廃止の検討が必要 等

自己評価(一次評価)	評価会議評価(二次評価)	町長評価(三次評価)
A		
ロードヒーティング改修は、交通の安全確保をする上で必要不可欠なものであることから、今後も計画どおり事業を進めることが適当であると判断する。		



継続/現状維持		
ロードヒーティングの改修を行うことにより、冬期間の急勾配路線交差点付近の交通安全の確保と交通障害を未然に防ぐこととなるため必要不可欠であることから、継続、現状維持が適当であると判断する。		

※展開方向の区分
 継続/現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更
 終了 休止 廃止